【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第１部門第１区分
【発行日】平成21年10月15日(2009.10.15)

【公表番号】特表2006-510342(P2006-510342A)
【公表日】平成18年3月30日(2006.3.30)
【年通号数】公開・登録公報2006-013
【出願番号】特願2003-580378(P2003-580378)
【国際特許分類】
Ｃ１２Ｎ　15/09　(2006.01)
Ｃ１２Ｎ　15/00　(2006.01)
Ｃ１２Ｎ　9/64　(2006.01)
Ｃ０７Ｋ　19/00　(2006.01)
Ｃ１２Ｎ　1/15　(2006.01)
Ｃ１２Ｎ　1/19　(2006.01)
Ｃ１２Ｎ　1/21　(2006.01)
Ｃ１２Ｎ　5/10　(2006.01)
Ａ６１Ｋ　38/46　(2006.01)
Ａ６１Ｐ　7/04　(2006.01)
Ａ６１Ｐ　43/00　(2006.01)
Ａ６１Ｌ　15/44　(2006.01)
Ｇ０６Ｆ　17/30　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｃ１２Ｎ　15/00　ＺＮＡＡ
Ｃ１２Ｎ　15/00　Ｚ
Ｃ１２Ｎ　9/64　Ｚ
Ｃ０７Ｋ　19/00
Ｃ１２Ｎ　1/15
Ｃ１２Ｎ　1/19
Ｃ１２Ｎ　1/21
Ｃ１２Ｎ　5/00　Ａ
Ａ６１Ｋ　37/54
Ａ６１Ｐ　7/04
Ａ６１Ｐ　43/00　１１１
Ａ６１Ｌ　15/03
Ｇ０６Ｆ　17/30　１７０Ｆ

【誤訳訂正書】
【提出日】平成21年8月18日(2009.8.18)
【誤訳訂正１】
【訂正対象書類名】明細書
【訂正対象項目名】００１３
【訂正方法】変更
【訂正の内容】
【００１３】
先に言及したように、好ましい態様には、プロペプチドドメインおよび活性化または切断ドメインから切断されている完全にプロセシングされた軽鎖および重鎖の二量体分子が含まれると考えられる。好ましい態様において、軽鎖には、軽鎖の57位と62位とのあいだ、90位と101位とのあいだ、95位と110位とのあいだ、112位と121位とのあいだ、129位と140位とのあいだ、および/または151位と164位とのあいだに鎖内Cys-Cys結合が含まれ、重

鎖の216位と221位とのあいだ、236位と252位とのあいだ、377位と391位とのあいだ、および/または402位と430位とのあいだに鎖内Cys-Cys結合が含まれ、そして軽鎖の172位と重鎖の329位のあいだに鎖間Cys-Cys結合が含まれる。好ましい態様において、SVPは、共因子の非存在下で不完全な活性化因子、例えばヒト第X因子またはトロカリンより有意に大きい活性を示すという点において、完全または部分的に完全なプロトロンビン活性化剤である。好ましくは、完全または部分的に完全なプロトロンビン活性化剤の活性は、不完全な活性化剤、例えばヒト第Xa因子またはトロカリン単独より少なくとも1.5、2、4、10、15、20、50または100倍（2次数）高い。この比較は、同じまたは類似の条件において、例えばCaおよびリン脂質の非存在下で測定したヘビ毒プロテアーゼと不完全な活性化剤のあいだで行われる。好ましい態様において、完全または部分的に完全な活性の割合％（すなわち、Caおよびリン脂質の存在下で同じ活性化剤について認められた活性の％と比較した、Caおよびリン脂質の非存在下での完全または部分的に完全な活性化剤の活性）は、不完全な活性化剤、例えばヒト第X因子またはトロカリンによって示される同じ％より少なくとも1.5、2、4、10、15、20、50、100、1000、または4000倍高い。好ましい完全または部分的に完全な活性化剤は、約10^{-10}～10^{-6} M、例えば10^{-8}～10^{-7} Mの濃度でクエン酸加血漿（citrated plasma）を凝固させ、凝固時間は約50～15秒であり、Ca^{2+}およびリン脂質非依存性を示す。したがって、プロトロンビン活性化剤は、約10^{-10}～10^{-06} Mの濃度範囲で共因子（カルシウムイオンおよび/またはリン脂質）非依存性の速度論特性を示し、この範囲は血液の損失を減少させるために適した作業範囲である。

【誤訳訂正２】
【訂正対象書類名】明細書
【訂正対象項目名】００１５
【訂正方法】変更
【訂正の内容】
【００１５】

先に言及したように、好ましい態様には、プロペプチドドメインおよび活性化または切断ドメインから切断されている完全にプロセシングされた軽鎖および重鎖の二量体分子が含まれると考えられる。好ましい態様において、軽鎖には、軽鎖の57位と62位とのあいだ、90位と101位とのあいだ、95位と110位とのあいだ、112位と121位とのあいだ、129位と140位とのあいだ、および/または151位と164位とのあいだに鎖内Cys-Cys結合が含まれ、重鎖の216位と221位とのあいだ、236位と252位とのあいだ、377位と391位とのあいだ、および/または402位と430位とのあいだに鎖内Cys-Cys結合が含まれ、そして軽鎖の172位と重鎖の329位のあいだに鎖間Cys-Cys結合が含まれる。好ましい態様において、二量体SVPは完全なプロトロンビン活性化因子である。言い換えれば、これは部分的に完全なプロトロンビン活性化因子である。好ましい態様において、SVPは、共因子の非存在下で不完全な活性化因子、例えばヒト第X因子またはトロカリンより有意に大きい活性を示すという点において、完全または部分的に完全なプロトロンビン活性化剤である。好ましくは、完全または部分的に完全なプロトロンビン活性化剤の活性は、不完全な活性化剤、例えばヒト第X因子またはトロカリン単独より少なくとも1.5、2、4、10、15、20、50、100、1000、または4000倍（2～4次数）高い。この比較は、同じまたは類似の条件において、例えばCaおよびリン脂質の非存在下で測定したヘビ毒プロテアーゼと不完全な活性化剤のあいだで行われる。好ましい態様において、完全または部分的に完全な活性の割合％（すなわち、Caおよびリン脂質の存在下で同じ活性化剤について認められた活性の％と比較した、Caおよびリン脂質の非存在下での完全または部分的に完全な活性化剤の活性）は、不完全な活性化剤、例えばヒト第X因子またはトロカリンによって示される同じ％より少なくとも1.5、2、4、10、15、20、50、100、1000または4000倍高い。好ましい完全または部分的に完全な活性化剤は、約10^{-10}～10^{-6} M、例えば10^{-8}または10^{-7} Mの濃度でクエン酸加血漿を凝固させ、凝固時間は約50～15秒であり、Ca^{2+}およびリン脂質非依存性を示している。したがって、プロトロンビン活性化剤は、約10^{-10}～10^{-06} Mの濃度範囲で共因子（カルシウムイオンおよび/またはリン脂質）非依存性の速度論特性を示し、この範囲は血液の損失

を減少させるために適した作業範囲である。